

香取遺産

- ①地区の北部にある齋田
②多聞天社前での当番の引き継ぎ



ひげなで祭

vol.197 そばたか
側高神社に伝わる奇祭 (2)

ひげをなでるしぐさが特徴的な「ひげなで祭」は、大倉地区に鎮座する側高神社で行われる行事です。香取遺産第79回では当番引き継ぎの際にひげをなで酒を飲み合う「七引き合い」を中心に取り上げましたが、今回は行事に目を向けたいと思います。

ひげなで祭は、側高神社の氏子による当番引き継ぎおよび五穀豊穰と子孫繁栄を祈願する行事です。元々は側高神社の別当寺である千手院せんじゆいんで行われていたと伝わり、別当寺の守護神である毘沙門天びしゃもんてん(多聞天たもんてん)の齋田さいでんを管理する当番の引き継ぎとして行われます。田は同地区の北部にあり、その田の管理や耕作を当番が担います。ほかには引き継ぎの際の神饌しんせんや、酒宴で用いる酒やサカナ(鮭や鮒)を調達します。かつては齋田で収穫した米で濁り酒を醸造して酒宴さうばんに饗あづかり、行事に用いる神饌などは地元産だったそうです。

祭礼当日、境内社務所より当年および次年の当番などが参進し、拝殿にて祭典を齋行した後、社殿西側にある多聞天社の前で新旧当番が向き合い、当番の引き継ぎが行われます。

これらの後、拝殿前で「七引き合い」の酒宴が行われます。西側にひげをたくわえた祭当番、東側に請当番が向かい合って座ります。七引き合いは、初献しよこんから始まり「一、三、五、七、七、五、一」と規定の杯数を各組交代で飲み進みます。規定以上の杯数を祭当番が飲み干した際にひげをなでると、請当番に対して「もっと飲め」の合図となり、杯が重なるにつれ見物客の笑いを誘い、大いに盛り上がります。

今回のひげなで祭は、令和5年1月8日13時30分ごろより、3年ぶりに執り行われる予定です。